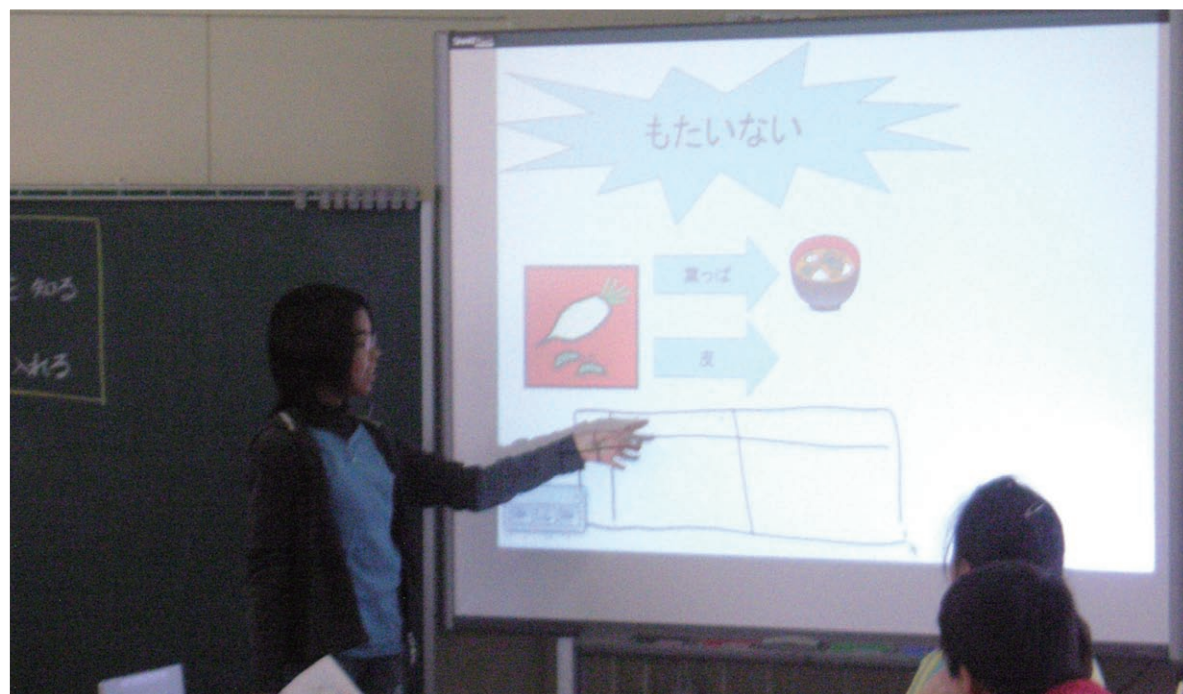


# 安心安心!いくら書き込んでも元通り!



## 授業のねらい・ポイント

調べ学習の中間報告を行い、プレゼンの工夫の共有化を図る

## 授業の展開

- ① 教師が本時のめあて（プレゼンの工夫）を示す
- ② 数名の児童が作成中のプレゼン資料を提示し、未完成の部分はペンで書き込みながら完成時の構想を説明する。
- ③ 教師は、それぞれの児童の工夫を黒板にまとめたり、児童のプレゼン資料にペンで書き込みしたりしながら、プレゼンの工夫を説明する。

## 利用した教材・コンテンツ

児童が作成中のプレゼン用ファイル

## 電子黒板を使う上でのねらい

児童は作成中のプレゼン資料を提示する。その際、未完成の部分をペンで書き込みながら完成時の構想を説明する。

## 電子黒板を使ったことによる効果

- ・各児童の工夫をクラス全体で共有化するのに役立った
- ・全児童が、発表に集中していた

## 電子黒板の設置面での工夫

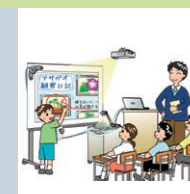
- 併用する黒板を広くつかうため、電子黒板を黒板の右に設置した
- プロジェクター係となった児童が設置準備を手伝った



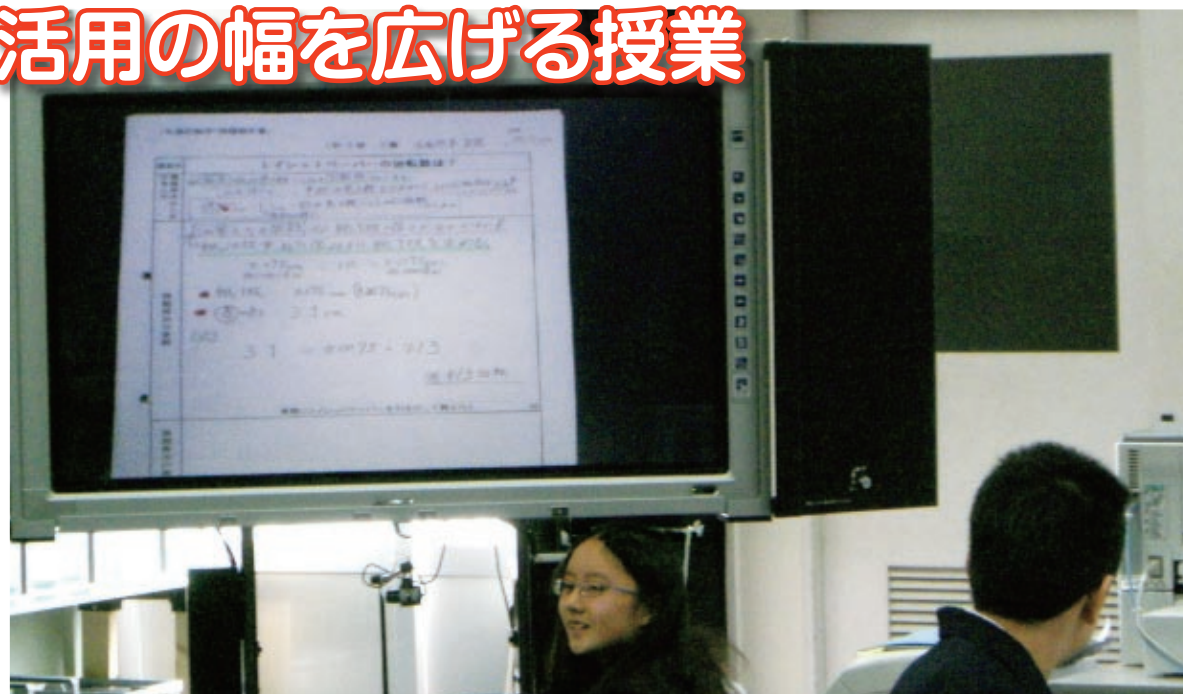
## ～ 上先生からの一言 ～

プレゼンの工夫をみんなで共有化し、その後の製作に生かすという学級全体でそれぞれの作品のレベルアップを図る実践です。電子黒板上なら、作品に説明や課題の残る点などを書き込んでも、それらを消して元の作品に戻すことができます。制作途中の模造紙にマジックで書きこんで・・・だと作品が台無しですね。安心して書き込めることで子どもたちの発表する活動をより意欲的なものにできるでしょうし、書き込みながらの発表は見せながらの説明よりもひとつレベルの高い力を養います。また、先生は黒板と電子黒板を上手に使いこなすことでも学級全体への高い共通理解を促しています。この実践アイデアは図工での子どもたちの作品の鑑賞授業にも使えますよ。





# アナログのデジタル化により 活用の幅を広げる授業



## 授業のねらい・ポイント

本単元の学習目標は、問題を解くために具体物を用いて実測したり、計算したりして求め、比較検討し、考えを深めることができる能力を育てることです。そこで、授業ではトイレットペーパーを使い切るまでの芯の回転数を実際に引き出さずに求める方法を考え、具体物を用いて実測したり、計算したりして求め、ワークシートにまとめる学習をしました。

既習事項を活用して、実際的な問題を解決することで数学の学習に対する興味・関心が高まるとともに、多様な考えを比較検討することで数学的な見方・考え方が深まるようになります。

## 授業の展開

- ① 本時のねらいの確認
  - ② 生徒が自分の考えを発表する。(電子黒板)
  - ③ 生徒どうしで比較検討する。(電子黒板)
  - ④ 教師が補足説明する。(電子黒板)
- (②～④の繰り返し)
- ⑤ 次時の学習予定を知る。

## 利用した教材・コンテンツ

ワークシート (自作)

## 電子黒板を使う上でのねらい

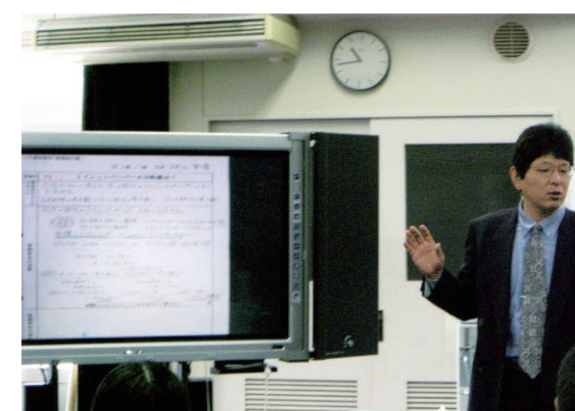
電子黒板を活用して、個人または小グループで解決した考えを全体で共有します。その考え方を検討したり、個々の考えと比較したりするために、生徒のワークシートを書画カメラで投影し、発表会を行いました。

## 電子黒板を使ったことによる効果

- ・生徒のワークシートを書画カメラで電子黒板に撮影し、大画面に提示することで、生徒が発表準備に時間をかけずに済み、課題解決の時間や比較検討の時間を確保することができました。
- ・ペン機能を使用することで発表に工夫が見られ、提示資料を個々の画面に映して見やすくすることで、他の考えを理解しようとする意欲の高まりが見られました。

## 電子黒板の設置面での工夫

事前に発表者のワークシートを書画カメラで撮影・保存しておき、授業がスムーズに進行できるようにしました。



## ～ 金井先生からの一言 ～

生徒が考え方を記入したワークシートを電子黒板に提示しながら発表を行わせる活用法は、わたしの定番です。そして、この実践においても工夫されているように、アナログのプリントをデジタル化(取り込み)してから活用することがポイントです。デジタル化してから活用することにより、電子黒板付属のソフト等を使って簡単に拡大提示やかき込みを行うことが可能になるからです。わたしの場合はスキャナを使っていますが、スキャナのソフトと教材作成ソフトをうまく連携させることにより取り込みから教材化まで数十秒で行えるようになります。

